



平成28年9月1日現在	
総世帯数	1,485世帯
総人口	2,742人
男	1,287人
女	1,455人

戦後七十年

宮村一丁目町会 今と昔

宮村町一丁目 守屋 義雄

わが町の町会は今、今でこそ中央二・三丁目と味気ない番地で示されていますが、かつての町名は宮村町一丁目であり、近くに深志神社があることから名付けられた意義深い町会です。

松本は前の大戦で空襲を受けなかったため、戦前からの町並みがそのまま残って、昔ながらの古い佇まいを残していました。

ところが昭和の三十年代から始まった高度経済成長と車社会への急速な移行を機に、町の趣は大きく変わってしまいました。

かつての宮村町は商都松本の一角を成していました。城下町松本の蔵造りの商家、雑貨や食料品販売の小売り店舗、古くから続いた石材店が軒を並べた町でした。

ところが、戦後の日本が急速に変わりゆく中で、昔ながら

らの蔵造りの家屋は次々と姿を消して、時代は新しいものを求めて、街並みは急速に変貌していきました。

古からの善光寺街道の一角には名水の源智の井戸があり、旅人の往来で賑わっていました。明治天皇の松本巡行の際には御膳水としても使用され、環境省の「名水百選」にも認定されています。

また宮村町を横切る高砂通り沿には、榛の木川の清らかな流れがあり、多くの観光客の目を惹きつけてくれます。「きれいな水だね」とその美しさに心とむ様子を見るのはとてもうれしいものです。

現在、宮村町は歩行者のための道路整備も進んでいます。

住民は、高砂通り周辺地区まちづくり推進協議会の武田信一郎会長の下、源智の井戸や榛の木川の清掃と美化、そしてニジマスの棲息する豊かな自然を守る活動に住民一同が心を一つにして、まちづく

コーヒーの話

飯田町一丁目 町会長 丸山 昌巳

小さな喫茶店をやっている私に公民館報編集委員より「コーヒー」を題材に原稿を書いてほしいとの依頼がありました。昨年のふれあい健康教室で「コーヒーの基礎知識と淹れ方」についてお話と実演をしたからでしょうか。ここではその内容と重複しますが、コーヒーがどんな所で作られているかを知っていただきたいと思っています。

さて、コーヒーがどんな所で生産されているかご存知で

りに精を出しています。近くに芸術館や美術館もある第二地区の風雅で趣のある風景に、観光客が足を運べる町になることを願っています。



源智の井戸

すか？ コーヒーを生産しているほとんどの国は赤道の南緯25度と北緯25度の帯状のエリア内にあります。代表的な国を生産量の多い順にあげると、今回オリンピックが行われたブラジル、東南アジアのベトナムや南米のコロンビアがベスト3となります。これらの国を含む多くの生産国では標高が千メートルから二千メートルの高地でコーヒーが

作られていることは意外と知られていません。この高地で育ったコーヒーノキに白い花が咲き実ができます。この実が赤や紫色に熟したものを収穫し、実の回りに残っている果肉を取り除くと種が出てきます。この種を洗浄して天日干しをしたり機械乾燥したものが「コーヒーの生豆」になります。コーヒーの生豆は生産国から消費国へと輸出され、それぞれのお店で焙煎がされて皆さんが目にする焦げ茶色をしたコーヒー豆となります。

焙煎されたコーヒー豆を粉にしてお湯を注ぐと皆さんが普段飲んでいる琥珀色をしたコーヒーになります。淹れたてのコーヒーを飲みながら、このコーヒーはどんなところで作られたのかを想像しながら

ら味や香りを楽しんでみるのはいかがでしょうか。



コーヒーの花

案内板

文化祭のお知らせ

今年は…

11月12日(土)

11月13日(日)

に開催します。

バザー用品も随時受付けています。ぜひご協力をお願いします。

●訂正とお詫び●

前号の公民館五部門委員の紹介記事に誤りがありました。

今年度の日赤奉仕団团长は「村上圭子」さんではなく、「千田圭子」さんです。

訂正してお詫び申し上げます。

第15回第二地区盆踊り大会

第15回第二地区盆踊り大会が8月12日夕、天候に恵まれ盛大に開催された。

例年になく多くの人に参加し、全体で400人程で殊に子どもの数が多かった。

中にはアメリカからの観光客もあり、ビールを飲みながら盆踊りを楽しんでいた。



綿あめ三姉妹



準備完了! さア行くぞ!



楽しいなア



Let's enjoy "Bon Dance"



祭りも最高潮!!



「お兄ちゃん、助けて!」

「幸せの鈴」に

願いを込めて

福祉ひろば コーディネーター 祖父江 律子

30粒のビーズ玉を複雑に通し合わせた球の中に鈴を入れて仕上げたキラキラした根付けの鈴。私達はこの鈴に子ども達が平和で幸せに過ごせますようにと願い「幸せの鈴」と名付けた。一つ作るのに大変な時間と手間を要したこの鈴は福祉ひろば推進協議会根本副会長を中心とした役員の方作である。

今回はこの鈴とペロペロキャンディを袋詰めにし、盆踊り大会子ども参加賞用として100個を初めて用意した。

大会当日参加した約80名の子ども達は思いもよらないプレゼントに大喜び。

奇しくも今年が第15回の節目の大会。こんなプレゼントが子ども達をつなぎ、ずっと盆踊り大会が受け継がれていくことを願いながら、「また来年も来てね」と手渡した。



福祉ひろば視察研修

7月27日地球に優しく、自然との共生を目指した水に取り組んでいる「サントリー天然水南アルプス工場」を見学した。工場は南アルプスの懐甲斐駒ヶ岳の裾に広がる深い森に囲まれた白州台地の中にあつた。

案内人から「使用する水量の削減、環境に配慮した容器の改良、品質の安定化、次世代に伝える水育の活動など、自然のおいしさを安全にと南アルプスの天然水の森から作りだしている。」と説明を受けた。

水は生活していくにはなくてはならないもの。ともすれば水のありがたさを忘れそうなか、改めて水の重要さを感じさせられた。



平成28年福祉ひろばバス視察研修 サントリー天然水南アルプス工場

すすき川

とある道の駅。ほんやりと食堂の窓外を通る人を見ていた。ふと、老人の多いのに気付いた。腰を屈め杖をつく人、両手にまで持ち足取りも危なげな人カートの掴まる人、電動車椅子に乗る人など、必死に歩いていく。

昔、祖母が話してくれたスフィンクスのお話。「生まれた時は四つ足で、次に二本足、最後は二本足で歩く動物はなんだ」と、通る人毎に謎をかけ、答えぬと取って喰ったそう。

そいつは顔が女で身体はライオンという恐ろしい化物。それが或る日「それは人間さ」と、あっさり答えた人がいたそう。それから何千年、そいつは無言でピラミッドの前に座り続けているという。

「今ならお前はどの謎をかけるんだ。四、二、三の杓子定規じゃ収まるまい。それに何らかの理由で歩行機能に障害を持った人はどうするの」と、聞くと、そいつは「これからは誰でも電動車椅子が持てる。動く道も出来る。だから人間は歩く必要がなくなるのさ」と、平然と答えた。やはり健康寿命延伸は足元から歩き出すことが大切なのかもしれない。

(深澤)